

今後の授業計画と新型コロナウイルスの広報について

【ご意見・ご要望】(投稿日:2021年6月19日)

この投稿日から週末を過ぎて月曜になれば京都府に発令されている緊急事態宣言が解除され、まん延防止措置に移行しますが、活動レベルや授業形式の変更について大学からは何も発表がありません。また、京大の教員も関わった感染者数の予測では、変異株の影響もあり開催の是非が問われるオリンピックに関係なく、全国で人流が増え、4度目の緊急事態宣言が必要になるとの見解が出されています。一方で京大でもワクチン接種が始まる旨の発表がありましたが、学生と職員のワクチン接種状況の進展は授業計画にどのような影響を与えるのでしょうか。

7月から9月にかけては集中講義や実習も多く開催される中で、授業がどのように行われるのか、なぜそれを行うのかという明確な方針を示して欲しいです。

思えば去年の4月、私が大学院生として入学したときから、京大の新型コロナウイルス対応は後手を踏んでいたと思います。3月に大阪大学や神戸大学等の他の大規模国立大学が早々に臨時休校の措置を打ち出す中、京大の対応は遅々として決まらず、結局休校が決まったのは4月2日だったと記憶しております。年度末の修論発表会もオンラインなのか対面なのか直前まで分からず、初めて知ったのは担当教員からのリークでした。また集中講義の授業は、今学期に予定されているものも含め、昨年度も開催1ヶ月前になってもオンラインか対面か分かりませんでした。いずれの授業も、「感染状況を考慮して」というような文言にとどまり、期間内に授業をオンラインにするか対面にするか、どの授業を対面にする必要があるのかという明確な基準は示されなかったように記憶しております。

それから6月20日までの授業形式についても、ホームページの新型コロナ対応の小さいボタンを押して、PDFを開かないと見られません。ワクチン接種についても同様です。学内で7月から打てると知っている人はあまり多くないと思われます。

京大の対応は総合的に見て、基準がなく様子見して動いているようで、またメッセージ性も弱いように感じます。あまり他と比較するのは好きではないですが、私が以前通っていた神戸大学では、ホームページの一番見やすいところに第2クォーター(6月から9月まで)の授業を原則オンラインで行う旨が書かれています。

現在学生意見箱に寄せられる不満の意見の中には、もちろん「対面によってキャンパス・ライフを奪うな」というオンライン授業自体に対する批判もありますが、その一方で「オンラインならば今引越す必要がなかった」等、広報に起因すると思われるものも相当数見受けられます。またオンライン授業自体への批判についても、半ば諦めるのではなく、危機感の薄い学生が少しでも納得できるような強いメッセージを大学として適宜出していくことが大切ではないでしょうか。さらに、今後は変異株が蔓延すれば、従来なら対面ができそうな状況でもオンラインが望ましいことや、あるいは逆にワクチン接種が進めば、変異株が蔓延に関係なくオンラインが望ましい状況でも対面ができそうというような2つの矛盾する状態が出てくることは容易に想像できるので、「基準の明示」が非常に大切になると考えます。

もちろん、ホームページの一面で基準を示した上で授業計画やメッセージを大きく表示したところで見ない人は見ないでしょうし、見た上で不満をぶつける人も一定数存在すると思いますが、それでもそういった広報が圧倒的に弱い現状より遥かに良いと考えます。

以上、長々となりましたが、今年度前期(できれば今年度いっぱい、最低限来月末まで)の授業計画とそれを行う理由を早急に提示し、変異株とワクチン接種に伴う授業計画への影響を分かり次第提示することを要望いたします。

【回答】(回答日:2021年7月14日)

(回答部署:教育推進・学生支援部教務企画課)

ご意見ありがとうございます。

本学では従前からお知らせしていたとおり、緊急事態宣言終了時に状況が改善されれば速やかに対面授業に戻し、本来の学生生活を過ごしていただきたいと考えており、現在、原則対面授業を再開していますが、各科目の詳細については開講部局から提示されています。

また、大学でのワクチン接種後の副反応により、学生等が授業や定期試験を受けられない場合は所属部局へご相談ください。

なお、変異株の影響等により「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う活動制限のガイドライン」の対応レベルが変更されるなど、授業計画への影響がありましたら早急にお知らせします。